

令和 3 年 5 月 29 日現在

機関番号：13501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2020

課題番号：17K12305

研究課題名(和文) 未就学児をもつシングルマザーの育児および健康支援に向けた包括的アプローチの検討

研究課題名(英文) Study of the comprehensive approach to child care and health support for single mothers with preschool children

研究代表者

佐々木 美果 (SASAKI, Mika)

山梨大学・大学院総合研究部・助教

研究者番号：80620062

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：シングルマザーとして出産し子育てをしていくことを決定した妊婦に対する助産実践を明らかにすることを目的とし、助産師としての経験が4年目以上の助産師5名を対象に、シングルマザーの支援に関する視点や保健師との連携に焦点をあて半構成的インタビューを実施した。助産師は、シングルマザーの背景や妊娠に対する覚悟を把握したうえで寄り添い、継続的に支援を行う過程で母親になろうとしていく変化をアセスメントしていた。さらに自らが核となり保健師とシングルマザーをつなぎ、産後をみずえ連携しながら支援を実践していることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

シングルマザーとなり育児をしていく母親に対し、助産師が妊娠期から対象をどのようにとらえケアを検討しているのか、また出産後のサポートの要となる保健師との連携をどのように考えながらケアを進めているのかが明らかとなった。妊娠期から保健師との連携を行っていくことが産後の包括的アプローチへとつながり、母児の安全が確保されることへとつながることが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to identify midwifery practices offered to single mothers during pregnancy by midwives. The study design followed a qualitative descriptive style. The subjects were five midwives who had been practicing midwifery for over four years. Semi-structured interviews were conducted with each participant separately. Interviews focused on their perspective, the form of support for single mothers, and their collaboration with public health nurses.

Midwives attempt to understand the background of single mothers and their readiness for pregnancy. They monitor the changes of pregnant woman as they adapt to becoming mothers while providing compassionate and continuous support for them. Furthermore, midwives play a central role in connecting public health nurses and single mothers in the post-natal period.

研究分野：母性・助産看護学

キーワード：シングルマザー 助産師 継続支援

## 1 . 研究開始当初の背景

我が国におけるシングルマザーは増加傾向にある。シングルマザーは経済的に厳しい状況に置かれていることや、両親家庭の母親と比較し家事や育児に費やす時間が長いため社会活動への参加が鈍ることや(吉田, 1979), 育児ストレスが高い状況の中で育児を行っている(佐々木他, 2018)ことが報告されている。さらに, シングルマザーは育児不安を感じていても, 専門職にサポートを求めることができず(佐々木, 2019), 母子世帯歴が長くなるにつれて体調が悪化するとの報告もある(森田他, 2009)。

このようなシングルマザーを含む, 出産後の養育について出産前から支援を行うことが特に必要と認められる妊婦として, 特定妊婦があげられる。助産師は, 女性の妊娠から産褥を通じて女性とパートナーシップを持って活動する専門家であることから, シングルマザーのように妊娠期から産後にも問題が継続することが予測される母親に対し, 妊娠中から積極的なアプローチを図る役割を担っている。複雑な背景を抱えていることが多いシングルマザーは, 周囲からのサポートが少なく孤立しやすい状況で妊娠期をスタートしていくため, その後もこの状況が継続していく可能性が考えられる。助産師はシングルマザーの状況を把握し, 保健師をはじめとする他職種と連携し, 産後の育児や生活を検討しながら支援を展開する必要があるが, その内容を明らかにした研究はみあたらない。

妊娠期からの妊婦健康診査を通して, 継続的に妊婦へ関わる専門職である助産師が, シングルマザーを妊娠期からどのようにとらえ, ケアを検討しているのか, また, 出産後のサポートの要となる保健師との連携をどのように考えケアを進めているのかを明らかにすることが, 出産後シングルマザーに対する包括的な継続支援につながると考えた。

## 2 . 研究の目的

本研究は, 未婚で出産することを選択した, シングルマザーに対する助産実践の内容を明らかにし, 今後のシングルマザーに対する, 効果的な妊娠期からの継続支援を検討することを目的とする。

## 3 . 研究の方法

### (1) シングルマザーに関する国内文献の検討

シングルマザーは, 妊娠期から産後も継続支援が必要とされることが多い。そこでシングルマザーを含む特定妊婦を対象とし, 国内文献においての文献検討を行った。医中雑 Web を利用して, キーワードは「特定妊婦」とした。

### (2) シングルマザーに対する妊娠期からの助産実践を明らかにするためのインタビュー調査

シングルマザーに対する助産実践の内容を明らかにするために, A 県内にある地域と連携がとれている産科医療機関に勤務する, 助産師としての経験が4年目以上の助産師5名を対象に, シングルマザーの支援に関する視点や, 保健師との連携に焦点をあて, 2020年7月~9月にインタビュー調査を実施した。継続比較分析を行い, サブカテゴリー, カテゴリーと抽象化し, シングルマザーに対する妊娠期の助産実践を示すコアカテゴリーを生成した。

## 4 . 研究成果

### (1) シングルマザーに関する国内文献の検討

キーワード検索にて142件が検索され, このうち原著論文は25件, 会議録は55件であった。今回は原著論文の本数が少なかったため, 会議録も含め検討した。これらの文献を入手し内容を確認したところ, 対象がハイリスク妊婦となっている文献があったため, それらの文献は除外した。また会議録の選定基準は, 会議録の発表後に原著論文として未発表であり, 内容から対象者や目的, 方法および結果の概要が把握できたものとした。これらの条件を満たしたのは原著論文15本, 会議録21本であり, 合計36本を分析の対象とした。

文献内容から明らかにされた知見をトピックごとに分類したところ, 「特定妊婦の特徴」「看護職が行っている特定妊婦に対する支援」「特定妊婦の支援に対する関連機関との連携」の3点が検討されていた。特定妊婦の特徴として, 経済的不安やひとり親, 精神疾患合併等の複雑な背景を持つことが明らかとなった。一方で, 特定妊婦の判断指標がない自治体が多いことも明らかとなった。また看護職が行う特定妊婦に対する支援としては, 看護職は特定妊婦と信頼関係を築きながら, 妊娠期から個別性のある支援を行う必要性が示された。さらに, 特定妊婦の支援に対する多職種間の連携は, 複雑な背景をもつ特定妊婦に対して, 早期に多機関が情報を共有しながら, 母児の安全が確保されるための支援を検討していく必要性が示唆された。

(2) シングルマザーに対する妊娠期からの助産実践の明確化

研究協力者の属性は、年齢が 27 歳から 56 歳であり、産科の経験年数は平均 10 年、看護管理者はいなかった。語ってもらった事例は 7 事例であった。事例の年代は 10 代～30 代、全員が初産婦であった。

分析の結果、テーマは、【シングルマザーとなり児を育てていくことができるかを見極める】【シングルマザーとして出産する決意をした妊婦に寄り添いながら育児に向けて支援していく】【継続した関わりから母親になろうとしていく変化をアセスメントする】【シングルマザーとなり育児をしていくことをみずえ保健師と連携する】の 4 カテゴリーと 10 サブカテゴリー、30 コードに分類できた。

シングルマザーに対する助産実践の内容は、妊娠期から産褥期を通して母児の安全を守ることにあったと考えられた。そのためコアカテゴリーとして、『妊娠期から育児を見越し母子の安全を守る』を抽出した。また、その実践内容はまず初めに、【シングルマザーとなり児を育てていくことができるかを見極める】ことから始まり、助産師が育児が可能だと判断した場合は、【シングルマザーとして出産する決意をした妊婦に寄り添いながら育児に向けて支援していく】という関わりをしながら、【継続した関わりから母親になろうとしていく変化をアセスメントする】ことを行っていた。さらに、【シングルマザーとなり育児をしていくことをみずえ保健師と連携する】ことが行われていた（図 1）

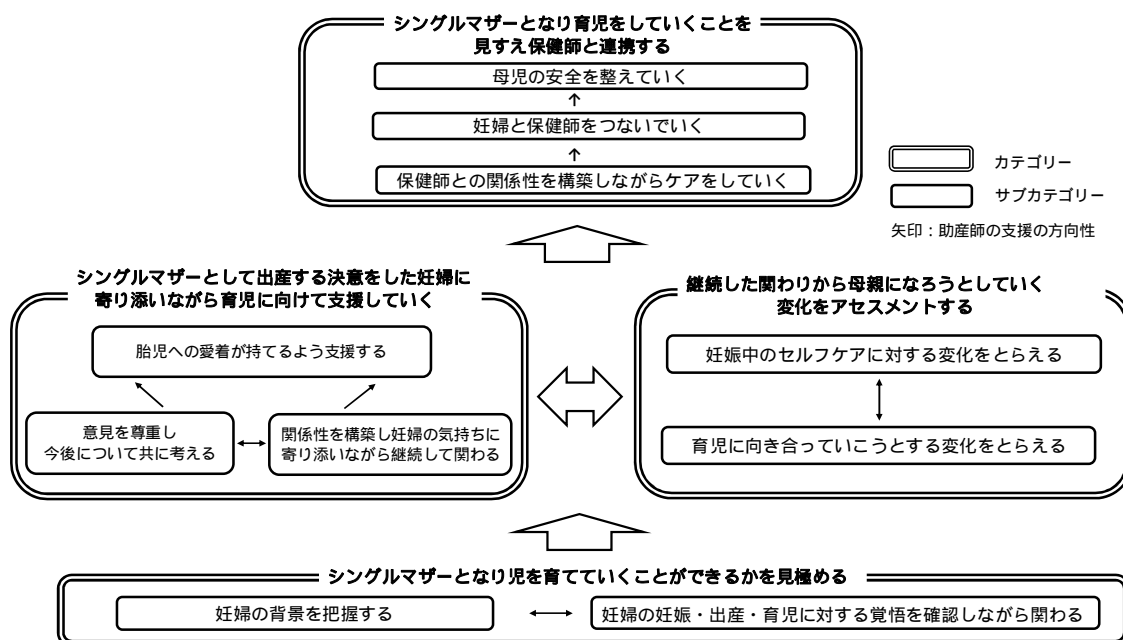


図1 妊娠期から育児を見越し母子の安全を守るための助産実践

シングルマザーに対する助産実践は、妊婦の背景や妊娠に対する覚悟を把握したうえで、妊婦に寄り添いながら継続的に支援を行う過程で母親になろうとしていく変化をアセスメントし、自らが核となり保健師とシングルマザーをつなぎ、産後を見据えて保健師と連携しながら支援を実践していることが示された。

< 引用文献 >

吉田恭爾 (1979). 母子家庭の問題と母子福祉施策. 現代のエスプリ, 142, 5-20.  
 佐々木美果, 清水嘉子, 塩澤綾乃, 他 (2018). 未就学児をもつシングルマザーの背景による育児ストレスと蓄積疲労. 母性衛生, 59(2), 416-423.  
 佐々木美果, 小林康江 (2019). 未就学児を育児中のシングルマザーが抱く思い. 山梨大学看護学会誌, 18(1), 15-20.  
 森田明美, 清水冬樹 (2009). 低所得母子世帯の生活実態から見る社会福祉課題の検討: 千葉県八千代市生活保護受給母子世帯への調査から. 福祉社会開発研究, 2, 93-104.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 佐々木美果, 小林康江	4. 巻 19
2. 論文標題 特定妊婦に関する国内文献の動向と看護における課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 山梨県母性衛生学会誌	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 康江 (KOBAYASHI Yasue) (70264843)	山梨大学・大学院総合研究部・教授  (13501)	
研究分担者	清水 嘉子 (SHIMIZU Yoshiko) (80295550)	名古屋学芸大学・看護学部・教授  (33939)	
研究分担者	阿部 正子 (ABE Masako) (10360017)	新潟県立看護大学・看護学部・准教授  (23101)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------